

第1回 化学人材育成プログラム支援対象専攻 取組みの概要

専攻名： 東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻

【専攻の概要】

○当専攻では、化学分野におけるわが国最高レベルの教授陣の下で、その深い専門性に基づいた最先端研究を進めながら大学院修士課程ならびに博士課程学生の実践的教育を行っている。修士課程においては、博士課程進学後の最先端研究を支えるための幅広い基礎教育を進め、修士卒業段階でも企業での活躍が期待できる卒業生を送り出してきた。博士課程では、これらに加え、各種の講演会・セミナーや世界拠点形成(GCOE)プログラムなどを通して幅広い分野の知識を習得できる取り組みを進めるとともに、博士学位取得要件に国際会議での口頭発表を課すなど、先駆的な試みを行っている。博士課程の人材育成方針として、チャレンジ精神を持った強い研究者を育てることに主眼を置いている。

【取組みの概要】

[目指す人材像]

- 応用化学に関する幅広い基礎と高度な専門知識を身につけ、それを基盤として多岐の分野にわたる研究・開発を率先して展開する自立した人材を育成するとともに、世界をリードする最先端の研究を推進することを、教育研究上の目的とする。
- 優れた研究ができるだけでなく、その研究の意義、成果を日本語、英語を問わず分かりやすく伝えることのできるコミュニケーション能力に優れた人材の育成を目指す。

[内容]

- 博士課程学生の目を産業界の課題や期待に向けることを目的に、「フロンティア化学」など、産業界からの講師による実践的な講義の必修化を検討。
- 自分の博士論文研究と異なる分野について、研究動向を調べてそれを踏まえた研究プロポーザルを考えさせる講義などを実施。
- 産業界、特に化学産業の分野からの講演会などをさらに定期的に企画していく。
- 学内外との共同研究計画策定や、研究助成や渡航費用助成への申請を通して教育。
- さらに海外渡航費を充実し、海外での発表を奨励し、共同研究滞在期間の延長も検討。
- 研究室でのセミナー等の英語化を推進する。
- より幅広い知識・経験を持った博士課程学生の育成を目的に、複数の研究室で総合的な博士課程人材育成を行える連携教育制度の整備を検討。
- TAやRAとして、責任を持って学部学生や大学院下級生に対し広く指導や助言を実践させながら自然に指導力が身につく環境を整える(TA、RA等を修了要件にすることも検討)。
- 学生の主催による研究交流会などの開催をより一層奨励する。

連絡先

- 担当者名： 但馬 敬介
- Tel: 03-5841-7244
- E-Mail k-tajima@light.t.u-tokyo.ac.jp